

## 集会宣言(案)

国連が、21世紀を「人権の世紀」と位置付けたのは、20世紀2度にわたる世界大戦を経験した人類が、「人権のないところに平和はなく、平和のないところに人権はない」という教訓を得たからでした。その21世紀から早くも20年が経過しましたが、今年の幕開けはアメリカによるイランの軍事司令官殺害という大きな事件であり、イランによる報復如何によれば世界戦争もあり得ると、全世界が震撼しました。戦争の火種は絶えてはおらず、EU内でも人種差別を政治的に利用して台頭する、ポピュリズムが勢いを増しています。

また、未知のウィルスが見つかること、人や物の移動がグローバルに展開する現代社会においては、瞬く間に人々の不安が増大し、経済等の影響を被る事態となり、積み上げてきたはずの人権感覚が崩れ去る事態を招来しかねません。

このように、人類が21世紀に託した希望はいまだ実現しているとはいえない現状にありますが、理想を捨て去ることはできません。未来を展望するために、私たちにできることは、あらためて歴史から得る教訓に謙虚に耳を傾けること。特に自分たちの国の負の側面や他の国に与えた苦痛から目を背けないということです。それは楽しいことではないかもしれませんが、不都合なことをなかつたことにして、迷信を信じこませようとする誘導に負けないために、教育と啓発の力を借りて、自ら判断する必要があるのです。そのことが、他者への共感力を高め、違う立場の人たち、違う文化の人たち、違う歴史を背負った人たち、等々を、個々人が理解し尊重し、助け合うことができる社会を創りあげることにつながっていくことでしょう。

私たちは、共生・協働の社会創造に向け、これからも歩みを続けていきます。

2020年2月22日

第51回人権交流京都市研究集会 参加者一同